

みずほマーケット・トピック(2014 年 10 月 31 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半に上昇する展開。週初 27 日に 108 円台前半でオープンしたドル/円は、日経平均株価が上値重く推移すると 107 円台後半まで連れ安に。さらに米 9 月中古住宅販売仮契約の弱い結果を受けてドル売りが優勢となると、ドル/円は一時週安値となる 107.61 円をつけた。28 日は欧州株が上昇する展開に 108 円台前半まで値を上げたが、米 9 月耐久財受注の予想を下回る結果に一旦 107.70 円近辺まで反落。その後発表された米 10 月消費者信頼感指数が 7 年ぶりの高水準となると、再び 108 円台前半まで上昇する荒っぽい値動きに。29 日、注目の FOMC では労働市場のスラックに係る文言が明確に上方修正されたうえ、海外景気停滞に対する懸念も明確な言及はなかったことから米金利が上昇する展開となり、ドル/円も 109 円手前まで急伸した。翌 30 日もドル買いが継続し 109.30 円近辺まで買い進められ、米 7~9 月期 GDP(1 次速報)が予想を上回ると瞬時 109.30 円を超えた。だが、個人消費の弱さが意識されると直ぐに上げ幅を失う流れに。本日にかけては年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)絡みの報道に円売りが強まり、ドル/円は一時週高値となる 109.47 円をつけ、本日にかけて 109 円台前半で推移している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は週半ばに下落に転じる展開。週初 27 日に 1.26 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、独 10 月 IFO 企業景況感指数が約 2 年ぶりの低水準となったことで軟化したものの、米 9 月中古住宅販売仮契約の弱い結果を受けたドル売りに 1.27 台を回復。28 日には、予想を下回る米 9 月耐久財受注の結果を受けたドル売りに 1.27 台半ばまで押し上げられ、その後は 29 日にかけて FOMC の結果待ちで方向感のない値動きが続いた。注目の FOMC では上述の通り、予想以上のタカ派寄りな結果となり、ドル買いが強まると、ユーロ/ドルは 1.26 台前半まで急落。翌 30 日に入ってもドル買い地合いが継続し、米 7~9 月期 GDP(1 次速報)が予想を上回るとユーロ/ドルは一時週安値となる 1.2545 をつけた。しかし、個人消費が予想を下回ったことからドル売りに転じ、本日にかけては 1.26 近辺で揉み合っている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		10/24(Fri)	10/27(Mon)	10/28(Tue)	10/29(Wed)	10/30(Thu)	
ドル/円	東京9:00	108.14	108.16	107.85	108.13	108.85	
	High	108.31	108.38	108.19	108.97	109.47	
	Low	107.78	107.61	107.69	107.94	108.75	
	NY 17:00	108.16	107.82	108.16	108.90	109.22	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2649	1.2677	1.2703	1.2738	1.2632	
	High	1.2696	1.2723	1.2765	1.2770	1.2639	
	Low	1.2635	1.2665	1.2685	1.2631	1.2545	
	NY 17:00	1.2672	1.2699	1.2735	1.2631	1.2613	
ユーロ/円	東京9:00	136.82	137.11	137.00	137.73	137.49	
	High	137.08	137.48	137.81	138.05	138.06	
	Low	136.50	136.59	136.89	137.41	137.05	
	NY 17:00	137.02	136.91	137.69	137.56	137.73	
日経平均株価		15,291.64	15,388.72	15,329.91	15,553.91	15,658.20	
TOPIX		1,242.32	1,254.28	1,252.00	1,270.64	1,278.90	
NYダウ工業株30種平均		16,805.41	16,817.94	17,005.75	16,974.31	17,195.42	
NASDAQ		4,483.72	4,485.93	4,564.29	4,549.23	4,566.14	
日本10年債		0.47%	0.47%	0.46%	0.47%	0.47%	
米国10年債		2.27%	2.26%	2.30%	2.32%	2.31%	
原油価格(WTI)		81.01	81.00	81.42	82.20	81.12	
金(NY)		1,230.90	1,226.55	1,228.54	1,212.06	1,198.78	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週、米国では月初恒例の重要指標の発表が相次ぐ。最大の注目は、やはり11月7日(金)の10月雇用統計である。10月雇用統計の調査週に当たる10月第3週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す4週移動平均で28.1万件と減少基調を保っている。米労働省は結果について特殊要因はないと発表しているうえ、9月の調査週よりも良好な水準となっており、労働市場は着実に回復しているとみられる。市場では非農業部門雇用者数に関し前月比+23.0万人と前月の同+24.8万人から鈍化、失業率は5.9%と前月から横ばいが見込まれている。また、3日(月)には10月ISM製造業景気指数の発表がある。ISM製造業は8月に59.0と2011年3月以来の高水準まで上昇したが、9月は56.6へと低下した。個別項目をみると、生産活動の先行指標となる新規受注の改善ペースも8月の66.7から60.0へと鈍化した。既に明らかとなっている各地区連銀の製造業景気指数をみると、10月はニューヨーク、フィラデルフィア、カンザスシティ、ダラス、リッチモンドの各指数は、リッチモンドを除き全て9月から悪化しており、10月のISM製造業景気指数も低下する可能性が高い(市場予想の中心:56.5)。このほか、4日(火)に9月貿易収支の発表があるほか、5日(水)には10月ISM非製造業景気指数や10月ADP雇用統計に発表などが予定されている。要人発言では、5日(水)にラッカー・リッチモンド連銀総裁、6日(木)にはメスター・クリーブランド連銀総裁がフォワードガイダンスに関する講演を行うほか、エバンス・シカゴ連銀総裁の講演なども予定されている。
- 欧州では、6日(木)にECB理事会が開催される。10月はECBが社債の買入を検討していると報じられて話題を集めたが、ECBはつい先日、カバードボンド購入プログラム(CBPP)をスタートしたばかりであり、資産担保証券購入プログラム(ABSPP)も年内に開始する予定である。さらにTLTROの応札も重ねていこうという段階であり、普通に考えれば既に導入した政策の効果を見極めるための時間を置くだろう。バランスシートを拡大されるために買入対象資産に社債や国債を加えるか否かは今後の焦点となるだろうが、現時点で社債購入も検討するということは、既存政策への自信の無さの現れと受け取られても致し方ない。

	本 邦	海 外
10月31日(金)	・9月全国消費者物価 ・10月東京都都区消費者物価 ・日銀金融政策決定会合・展望レポート	・米9月個人所得・消費 ・米10月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米10月シカゴPMI
11月3日(月)	文化の日	・米10月ISM製造業景気指数 ・米9月建設支出
4日(火)	・10月自動車販売台数	・米9月貿易収支 ・米9月製造業新規受注
5日(水)	・10月マネタリーベース ・9月毎月勤労統計	・米10月ISM非製造業景気指数 ・米10月ADP雇用統計
6日(木)	・9月景気動向指数(速報) ・日銀金融政策決定会合議事要旨	・米7～9月期労働生産性(速報) ・ECB理事会
7日(金)		・米10月雇用統計 ・米9月消費者信用残高

【当面の主要行事日程(2014年10月～)】

日銀金融政策決定会合(11月18～19日、12月18～19日、2015年1月20～21日)
 欧州中銀理事会(12月4日、2015年1月22日、3月5日)
 米FOMC(12月16～17日、2015年1月27～28日、3月17～18日)
 G20首脳会議(11月15～16日、ブリスベン)

以 上

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2014年11月)

月	火	水	木	金	週末
3 日本 文化の日 米国 ISM製造業景気指数(10月) 米国 建設支出(9月)	4 日本 自動車販売台数(10月) 米国 貿易収支(9月) 米国 製造業新規受注(9月)	5 日本 マネタリーベース(10月) 日本 毎月勤労統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 ADP雇用統計(10月) ユーロ圏 小売売上高(9月)	6 日本 景気動向指数(速報、9月) 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 米国 労働生産性(速報、7～9月期) ユーロ圏 ECB理事会 ドイツ 製造業受注(9月)	7 米国 雇用統計(10月) 米国 消費者信用残高(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月) ドイツ 貿易収支(9月)	8
10	11 日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) 日本 消費者態度指数(10月) 日本 企業倒産件数(10月)	12 日本 第三次産業活動指数(9月) 日本 マネーストック(10月) 米国 卸売売上高・在庫(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月)	13 日本 企業物価指数(10月) 日本 機械受注(9月) 日本 鉱工業生産(確報、9月) 米国 財政収支(10月) ドイツ 消費者物価指数(確報、10月)	14 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、10月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7～9月期) ドイツ GDP(1次速報、7～9月期)	G20 首脳会議(ブリスベン)
17 日本 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) 米国 鉱工業生産(10月) ユーロ圏 貿易収支(9月)	18 日本 日銀金融政策決定会合(～19日) 米国 生産者物価指数(10月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、9月) ドイツ ZEW景況指数(11月)	19 日本 景気動向指数(確報、9月) 米国 住宅着工/建設許可件数(10月) 米国 FOMC議事要旨 ユーロ圏 ユーロ圏経常収支(9月)	20 日本 貿易収支(10月) 米国 消費者物価指数(10月) 米国 中古住宅販売件数(10月) 米国 景気先行指数(10月) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(11月)	21	
24 米国 シカゴ連銀全米活動指数(10月) ドイツ IFO企業景況感指数(11月)	25 日本 企業向けサービス価格(10月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨 米国 FHFA住宅価格指数(9月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格指数(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月) 米国 GDP(2次速報、7～9月期) ドイツ GDP(2次速報、7～9月期)	26 米国 個人所得・消費支出(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 新築住宅販売件数(10月) 米国 耐久財受注(10月) 米国 シカゴPMI(11月) 米国 中古住宅仮契約指数(10月)	27 ユーロ圏 マネーサプライ(10月) ドイツ 消費者物価指数(速報、11月)	28 日本 労働力調査(10月) 日本 家計調査(10月) 日本 全国消費者物価指数(10月) 日本 東京都都区消費者物価指数(11月) 日本 商業販売統計(10月) 日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 新設住宅着工件数(10月) ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、11月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー(2014年12月)

月	火	水	木	金	週末
1 日本 自動車販売台数(11月) 米国 ISM製造業景気指数(11月)	2 日本 マネタリーベース(11月) 米国 建設支出(10月)	3 米国 ISM非製造業景気指数(11月) 米国 労働生産性(確報、7～9月期) ユーロ圏 GDP(2次速報、7～9月期)	4 ユーロ圏 ECB理事会	5 日本 景気動向指数(速報、10月) 米国 雇用統計(11月) 米国 製造業新規受注(10月) 米国 貿易収支(10月) 米国 消費者信用残高(10月) ドイツ 製造業受注(10月)	
8 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 *企業倒産件数(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 GDP(2次速報、7～9月期) ドイツ 鉱工業生産(10月)	9 日本 マネーストック(11月) 米国 卸売売上高(10月) ドイツ 貿易収支(10月)	10 日本 企業物価(11月) 米国 財政収支(11月)	11 日本 第三次産業活動指数(10月) 日本 機械受注(10月) 米国 小売売上高(11月) 米国 企業在庫(10月)	12 日本 鉱工業生産(確報、10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月) 米国 生産者物価(11月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	
15 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、10月) 米国 鉱工業生産(11月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 FOMC(～17日) ユーロ圏 貿易収支(10月) ドイツ ZEW景況指数(12月)	17 日本 貿易収支(11月) 米国 消費者物価(11月) ユーロ圏 消費者物価(確報、11月)	18 日本 日銀金融政策決定会合(～19日) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(12月) 米国 景気先行指数(11月) ドイツ IFO企業景況感指数(12月)	19 日本 景気動向指数(確報、10月) ユーロ圏 ECBユーロ圏経常収支(10月)	
22 日本 金融経済月報 米国 中古住宅販売(11月)	23 米国 個人所得・消費(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 耐久財受注(11月) 米国 GDP(3次速報、7～9月期)	24	25 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 新設住宅着工(11月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨	26 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 東京都都区消費者物価(12月) 日本 商業販売統計(11月) 日本 鉱工業生産(速報、11月)	
29	30 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(10月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	31 米国 シカゴPMI(12月)			

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年10月30日	FOMC声明文を受けて(10月28～29日開催分)
2014年10月28日	カバードボンド購入額をどう読むか?
2014年10月27日	欧州ストレステストを受けて～本当の勝負はこれから～
2014年10月24日	週末版(ユーロ圏PMIや域内のスラック(弛み)について～インフレ率が上がらない構造的背景～)
2014年10月23日	ECB社債購入を巡る3つの問題点
2014年10月22日	現時点の消費増税に対する市場の反応イメージについて
2014年10月21日	カバードボンド購入プログラム(CBPP3)などについて
2014年10月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2014年9月分)
2014年10月17日	週末版(米為替政策報告書について～ドル高容認か?～)
2014年10月16日	昨日の相場混乱について～ドル/円は適正な水準まで調整へ～
2014年10月15日	原油価格下落が日米欧金融政策に与える影響
2014年10月14日	G20を終えて～円とユーロで全く違う「通貨安の正当性」～
2014年10月10日	週末版(ドル/円相場の新しい節目～均衡水準は20%円安に?～)
2014年10月9日	FOMC議事要旨(9月16～17日開催分)を受けて
2014年10月8日	日銀金融政策決定会合を終えて～迫る期限の弾力化～
2014年10月7日	経済財政諮問会議(10/1)議事要旨を受けて
2014年10月6日	米9月雇用統計を終えて～経験則に照らせば利上げ?～
2014年10月3日	週末版(ECB理事会を終えて～需要不足と向き合うECB～)
2014年10月2日	短観9月調査に見る円安コストの陰
2014年10月1日	ECB理事会プレビュー～「量」を評価軸とする難しさ～
2014年9月29日	ドル高を阻むもの
2014年9月26日	週末版
2014年9月25日	安倍首相発言や最近の株高などについて
2014年9月24日	ドラギ総裁の欧州議会証言について～「量」の再強調～
2014年9月22日	ケアンズG20 財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年9月19日	週末版(第1回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)について～厳しくなる「量」の追求路線～)
2014年9月18日	FOMC(9月16～17日)を終えて
2014年9月17日	ドル/円相場の水準感に係るヒント
2014年9月16日	スコットランド独立についての論点整理
2014年9月12日	週末版(必要なのは「円安前提の成長戦略」～心配しなくても円安は進む～)
2014年9月10日	官製相場となったユーロ相場への考察
2014年9月9日	円安を巡る財界要人発言を受けて～伸び悩む実質GDI～
2014年9月8日	本邦7月国際収支統計などについて
2014年9月5日	週末版(ECB理事会を終えて～官製相場の様相を呈してきたユーロ相場～)
2014年9月4日	9月レバトリの妥当性や今後の直接収益などについて
2014年9月3日	105円台を受けて～日米2年金利差からの推計値など～
2014年9月2日	再び迫る「市場のユーロ売りvs.SNBのユーロ買い」
2014年9月1日	ECB理事会プレビュー～最大の注目点は声明文?～
2014年8月29日	週末版
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下～財政が嫌なら介入のみ～
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」～驚きずくめのジャクソンホール講演～
2014年8月25日	イエレンFRB議長講演～「見たいように見る」相場～
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず～俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計～)
2014年8月21日	FOMC議事要旨～「終わりの始まり」をどう考えるか～
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向～旅行収支は経常収支を支えるか～
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い～3つの契機～
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4～6月期GDPなどを受けて～日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ～)
2014年8月13日	本邦4～6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB 理事会を終えて～畳み掛けるような口先介入は焦りの表れ?～
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー～「最良の地合い」で現状維持～
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方～認識は変わらず～
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて～ECBとしては「早く結果が欲しい」状況～)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型LTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(CPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が出始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版(「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～)
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か?～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため?
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解金騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを広めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(「動かない相場」は企業の想定通り?～ブラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡?～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時?～
2014年6月18日	ユーロシステムと欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～
2014年6月16日	麻生財務相発言と「蓄積する現預金」について
2014年6月13日	週末版(オバマ米大統領の空襲示唆から思索する為替相場への影響)
2014年6月12日	今の日本は本当に人手不足か?
2014年6月11日	第二次ユーロフォリア?
2014年6月10日	進行するユーロ圏の日本化現象～金利・為替の現状から～
2014年6月9日	ECBにまつわる3つの「分かり難さ」
2014年6月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「百害あって一利なし」のマイナス金利導入～)
2014年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)などについて
2014年6月2日	ECB理事会プレビュー～プラスアルファの読み方～
2014年5月30日	週末版